

# 平成25年度 事業報告

## はじめに

我が国の社会経済情勢は、デフレ脱却に向けた政府の経済政策を受けて、株価、為替ともに一定水準で安定してきており、業績回復した大企業が多く見受けられるようになってきていますが、中小零細企業においては、まだまだ景気回復を実感するには至っておらず、大企業と中小零細企業、都市部と地方の差が現われていると言われております。

一方、健康被害に関して、印刷工場での胆管がんの発症等劣悪な作業環境下での化学物質による労働災害が大きく取り上げられるとともに、いわゆるブラック企業による社員の「使い捨て」、「使いつぶし」や、それ以外でも厳しい雇用情勢のもとでメンタルに不調を訴える従業員が増加していること等、大きな社会問題となっております。そのため、事業所での化学物質の取扱いの見直しや、メンタルヘルス対策の充実・強化を目指した労働安全衛生法の一部改正が国会において審議されており、今後の動きを注視していく必要があります。

さらに、健診・検査を取り巻く環境としては、特定健康診査・特定保健指導や各種がん検診ともに受診率が伸び悩み、県下の受診率は全国平均を下回る状況となっております。また、産業保健においては、依然として厳しい雇用情勢による事業所従業員数の減少の影響を、学校保健の分野においては出生率の低下による児童・生徒数の減少の影響を、それぞれ受けている状況が続いております。

このような状況の下、平成25年度は、当協会にとって課題であった「公益財団法人」への移行と新館の竣工を果たした大きな節目の年度となりました。

まず、平成25年4月1日付けで公益財団法人へ移行し、新たに「公益財団法人 兵庫県予防医学協会」として、県民の疾病予防と健康増進に寄与すべく、「疾病予防に関する知識の普及・啓発事業」、「疾病予防のための健康診断及び検査事業」、「予防医学に関する調査研究事業」並びに「健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業」の4つの事業に取り組みました。

また、平成24年8月に着工した新館については、平成25年11月29日に無事竣工し、平成26年1月24日から新健診センターとして施設での健診を開始し、受診者の満足度を高めるべくサービスの向上に努めております。

新館建設・移転に伴う経費増等により、平成25年度は赤字を計上することとなりましたが、新館移転を契機に、機動的かつ効率的な業務遂行に適う組織体制に再編したところであり、当協会の安定した経営基盤を構築するため、健診・検査の受診者満足度を高めるとともに、各事業において徹底した収支改善を行う等、役職員一丸となって公益法人としての使命を果たすため、更なる努力を続けてまいります。

# 事業の概要

## 公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

### 1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

#### (1) 広報・情報提供

##### ①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体に健康情報等を発信した。

90号～92号については、従来のおり4,000部発行したが、93号は内容を見直し、より充実した情報の発信を目的に、「産業保健情報誌」を合併し産業保健分野の内容を追加したことで、4,500部に増刷し、配布先を拡大した。

##### ②産業保健情報誌の発行

職場における健康管理や健康づくりに対する取り組みなど、産業保健分野の情報配信を目的として「産業保健情報誌」を発行している。今年度発行の30号・31号には、平成20年から実施してきた特定保健指導について検証した結果等をまとめた「特定保健指導の効果」をトピックス記事として掲載した。発行部数はそれぞれに1,500部とし、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体に配信した。

##### ③ホームページでの情報提供事業

必要な情報がより早く検索できるように内容を整理し、ホームページの全面リニューアルをおこなった。また、トップページにバナーを設置し、人間ドック等の申し込みをホームページからできるようにした。

#### (2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民・市民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」「働く人の健康づくり研修会」を定期的に行っている。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地方公共団体、健康保険組合、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

## ①講演会開催

### (ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

- ◇日 時 平成25年11月9日(土)
- ◇場 所 神戸新聞松方ホール
- ◇講 演 テーマ 「疲れは体からの警報ーそのつきあい方ー」  
講 師 札幌医科大学医学部 細胞生理学講座教授 當瀬 規嗣 氏
- ◇対 談 當瀬 規嗣 氏  
聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏
- ◇後 援 兵庫県／神戸市
- ◇参加者数 556名

### (イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

- ◇日 時 平成25年9月14日(土)
- ◇場 所 神戸新聞松方ホール
- ◇講 演 テーマ 「笑顔をとりもどすためのがん治療ー最新の放射線療法のすべてー」  
講 師 神戸大学医学部附属病院 放射線腫瘍科特命教授 佐々木 良平 氏
- ◇対 談 佐々木 良平 氏  
聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏
- ◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他
- ◇後 援 兵庫県／神戸市
- ◇参加者数 451名

### (ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

#### (i) ◇テーマ 「血液がんとその治療」

- ◇日 時 平成25年7月23日(火)
- ◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室
- ◇講 師 医療法人社団 神鋼会 神鋼病院 血液病センター長 高橋 隆幸 氏

- ◇参加者数 64名
- (ii) ◇テーマ 「早期胃・大腸がんの内視鏡治療—早く見つけ早く治療しよう—」
- ◇日 時 平成26年2月19日(水)
- ◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室
- ◇講 師 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座消化器内科学分野教授 東 健 氏
- ◇参加者数 76名

#### (エ) 働く人の健康管理研修会

平成8年度より、事業所等における従業員の健康管理をサポートするために、独立行政法人労働者健康福祉兵庫産業保健総合支援センターの後援を得て、年2回開催している。今度の開催内容は以下のとおり。

- (i) ◇テーマ 「職場復帰支援」—最近の裁判例も踏まえて—
- ◇日 時 平成25年5月21日(火)
- ◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室
- ◇講 師 大阪ガス株式会社 人事部大阪ガスグループ健康開発センター統括産業医  
岡田 邦夫 氏
- ◇参加者数 56名
- (ii) ◇テーマ 「セクシャル・ハラスメントはなぜおこる？」—性の健康と権利について—
- ◇日 時 平成25年10月25日(金)
- ◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室
- ◇講 師 大阪府立大学 人間社会学部 地域保健学域 教授 東 優子 氏
- ◇参加者数 22名

#### ②講師派遣

健康保険組合等が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師・保健師などを派遣した。

○企業・健康保険組合等が開催する講演会へ医師派遣：17回

テーマ「痛風について」「熱中症について」「現在の労働環境における問題点」「骨粗しょう症と食事」「健康診断の結果が届いたら」「インフルエンザについて」「タバコと健康」等。

#### ③普及・啓発活動

結核及び乳がんに関する知識の普及啓発、それらの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部 X 線検診車による結核検診および乳房検診車による乳がん検診をおこなった。

○こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者120名、乳がん検診受診者52名

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者24名

○ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者45名

○結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動

結核検診受診者：1,078名

## 2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

### (1) 地域保健

#### ①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた結果、受診者総数は前年度より約2,600人の増の約54,100人となった。しかし、胃がん・乳がん検診は、受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努めたが、受診者数は、胃がん検診が約22,700人、乳がん検診が約9,000人と共に前年度より微減となった。

大腸がん検診は、通年での市民健診との同時実施に加え、冬季期間（11月～3月）の郵送方式で実施し、受診機会の拡大と広報活動の充実による受診率の向上に努めた結果、受診者数は前年度より約6,000人増の約90,000人となった。コール・リコール（個別勧奨）事業の効果も受診者数増加に影響していることから、今後も積極的に取り組み、受診率を向上させることによるがんの早期発見に努めていく。

#### ②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施し、受診者数は年間230単位稼働し、昨年同様に約2,800人であった。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

#### ③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。土曜日の即日検査の受診者数は、予約枠を拡大したことにより、前年度と比較して約10%増の525人となった。また、夜間検診においても、献血によるHIV感染の報道の影響を受け、受診者数は、前年度より約90人増の約1,930人となった。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。今年度より尿によるクラミジア検査に切替えた事で、よりの確な診断が可能となった。今後も受診者へのプラ

イバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

## (2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を延べ約540,000人に対して実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度の導入等により厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等より円滑に実施するためのきめ細やかな取り組みを行った。少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

## (3) 産業保健

地方公共団体や一般企業等の事業所で働く人延べ約180,000人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せの導入により厳しい状況が続いているが、当協会の迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、既存契約先との継続受託に繋がり、継続的な健康情報の提供による事業所の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

労働安全衛生法の改正により、メンタルヘルスに関する対策関連事業が健康診断と同時に行われることが見込まれる等、健康診断内容は多様化してきている。今後も「こころ」を含めた健康管理に取り組むための体制等の整備を図る等、働く人の健康づくりを進めていく。

## (4) 総合健診

県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的に、阪神地域の拠点として、平成25年12月までは神戸市東灘区の御影健診センター、平成26年1月からは神戸市灘区に新築した新健診センターにおいて、また、神戸市西部及び東播地域の拠点として、神戸市兵庫区健康ライフプラザにおいて、法定の健康診断に様々な検査項目を追加した総合健診を実施した。

県民・市民の様々なニーズに応えられるように、「女性特有のがん検診」として「子宮頸がん検診」、「マンモグラフィ検査」及び「乳房超音波検査」、また、「CT検査」や「頭部MR検査」等、希望に応じて幅広く選択できる複数のオプション検査を設定した。更に、多忙な勤労者や事業主、日頃受診機会の少ない家庭の主婦等に対して、個々の都合に合わせて柔軟な対応ができるように、休日健診等の実施体制を整え、より受診しやすい環境を整備するとともに、健診結果において精密な検査や治療が必要と認められる受診者に対して、主治医や専門医療機関との病診連携を取りながら受診勧奨を行う等、アフターフォローの充実に努めた。

受診者数については、各健康保険組合の財政事情等による料金助成事業の縮小・廃止の影響及び新健診

センターへの移転による休業の影響に伴い、約7,400人と前年度より減少したが、今後は、充実した新健診センターの施設設備及び更新した健康ライフプラザのMR装置等を前面に押し出した積極的な広報活動を行い、受診者数の増加に繋げていく。

## (5) 保健指導

### ①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場においてがん検診の受診勧奨を行い、がんの早期発見のための検診受診の動機付けを行った。

また、若年者を対象として健診結果の集計分析結果と、「中食」(お店で購入したものを職場や自宅で食べること)の情報提供をグループワークやゲームを交えながら行い、食事バランスの重要性についての啓発を行う等、一人ひとりが健診結果を日常生活に活かすための意識づけや生活習慣病予防のために若年時期から健康管理を行う必要性を学ぶ機会を提供した。

### ②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

厚生労働省は、平成25年6月に職場における腰痛予防対策指針を19年ぶりに改訂し、重量物取扱い作業に携わるだけでなく、福祉・医療分野等に携わる働く人全てに対して腰痛予防対策を推進することが示されたことに伴い、事業所の依頼を受け、職場に出張して腰痛予防体操を指導した。

IT関連作業が多くなった事務職の健康管理を目的として、VD T作業症候群予防対策を一環とした講話と座位で可能な体操の指導を行った。

### ③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険を始め、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別または集団で実施し、以後6ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。

### ④地域・職域におけるメンタルヘルス事業のための保健指導

地域・職域からの依頼に基づき、ストレスチェック(職業性ストレス簡易調査票)を実施した。

集団での指導において、一般職員向けとして講話と唾液によるストレスチェック等セルフケアの指導を行い、また、管理監督者向けとしてモデル事例検討会等で具体的・実践的な対応方法の検討を行い、職場で活かせる研修を行った。

### ⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

神戸市より受託しているH I V検診(夜間・即日)等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。また、エイズ対策研修会等に参加し、知見を深め、受診者に対して必要な支援を行うことができるように努めた。

## ⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、熱中症や感染症等時事的な健康問題等についても可能な範囲で健康相談に応じた。

## (6) 細胞診

喀痰細胞診の検査数は、神戸市肺がん検診における受託分で約7,500件、協会内部検査分では約1,300件といずれも前年度とほぼ同数であった。

子宮がん細胞診の検査数について、神戸市子宮頸がん検診は、約32,000件であり、前年度より約1,000件減少した。そのうち、通常検診（20歳以上・2年毎）は約20,000件、「女性特有のがん検診」（無料クーポン券・20～40歳の5歳間隔）は約12,000件であった。無料クーポン検診は5年の実施期間を終了し、今後は未受診者への受診勧奨を中心に事業を継続していく。医療機関からの保険診療での受託分は、従来法（直接塗抹法）が約3,000件、LBC法（液状化検体細胞診）が約2,600件であった。協会施設内検診は約7,900件、HPV-DNA検査は34件であった。

厚労省の通達により、平成27年度には、子宮頸がん検診の報告様式が、従来のクラス分類（併記）からベセスダシステムに統一される。検体の適否判定とHPVのエビデンスを踏まえた記述的結果報告により、検診の精度は大幅に向上する。一方で、検体不適正症例は再検査が必要になる等、様々な課題が生ずるため、神戸市においては、LBC法（液状化検体細胞診）の導入を視野に入れた対策を検討中である。当協会は、既にLBC法による検診実績と効果を挙げており、今後とも神戸市及び関係機関との協力体制のもと適切に対応していく。

## (7) 腸内細菌検査

今年度の実施件数は約101,000件と前年度より約13,000件の減少となり、平成21年度以降継続して減少傾向にある。件数減少に歯止めをかけるべく、契約先のニーズに対応した付加価値（食品検査・衛生調査・精度重視）の充実を図るとともに、腸内細菌検査法の主流になると見込まれる遺伝子検査（マルチPCR）の導入についても検討を行い、実施件数の増加に繋げていく。

また、神戸市保健所からの腸内細菌・喀痰緊急検査については、今年度も引続き検査を受託した。食中毒等由来の感染症対策に基づいた腸内細菌（赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157）及び喀痰検査を実施した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

## (8) 作業環境測定

労働安全衛生法に規定される有害物取扱事業場の作業環境測定を中心に、作業場所あるいは居室を対象として、今年度は約1,100箇所の測定を実施した。

また、作業環境測定の年間延べ単位作業場所数では、昨今のアスベスト問題や胆管がん問題等産業活動に起因する健康被害が注目される中、対象化学物質の新たな規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、印刷、洗浄、塗装等有機溶剤を対象とする測定が76件、医療関連の施設で使用される



滅菌用エチレンオキシドやホルムアルデヒド等の特定化学物質が66件であり、前年度に比べて何れも増加した。

今後も、健診事業との総合的な連携による有害物質取扱い事業場の作業環境管理や事務所等の環境管理の支援を行い、働く人の健康維持増進や快適な職場の保持・創出に寄与していく。

#### (9) 食品検査等

食品営業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において延べ項目数が約2,000件、細菌検査において約7,700件と前年度に比べて減少した。

腸管出血性大腸菌、サルモネラ等の食中毒予防に対する食品営業者の関心は常に高いことを踏まえ、今後は、衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や検体収集等における利便性の向上等、検査依頼主の満足度を高めることにより、検査数の増加に繋げていく。

#### (10) 水質検査

今年度の実施件数は、水道事業者からの受託が前年度と比べて微増したものの、全体としての減少傾向は続き、水道法に規定される水道原水、浄水及び給水栓水等の水質検査は約790件、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査及びプール、公衆浴場等衛生管理上の検査は約2,300件、工場排水検査や環境基準等の計量証明検査が約460件であり、合計で約3,500件であった。

なお、水道水の供給を行う事業者に求められる「水道法20条に基づく水質検査」「特設水道条例に基づく水質検査」、あるいは工場・事業場排水など環境負荷にかかる「計量法第107条に基づく環境計量証明事業」については、専門性の高い検査機関による代替性が確保されている現状を踏まえ、今年度末をもって撤退した。今後は、プール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、水道利用者の生活衛生維持及び安全性の確保に寄与していく。

#### (11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が約3,700件、有効容量が10m<sup>3</sup>を下回る小規模貯水槽水道が約920件、その他準用等を含めた合計は約4,700件であった。

検査結果は、年度ごとに集計してそれぞれの自治体に報告しており、引き続き貯水槽水道の衛生的な維持管理や種々の水利用の自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

### 3. 予防医学に関する調査研究事業

#### (1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を

行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

#### ①論文発表（総説論文、原著論文等）

- 伊藤光男 品質管理センター精度管理室：ノンターゲット法によるオフフレーバーの分析. ジャパンフードサイエンス Vol. 52-4 : 53-61, 2013
- 橋本さおり 健康ライフプラザ健診部健診科：Diagnostic Significance of Subclinical Hypothyroidism in Health Check-ups. 総合健診 Vol40-4 : 18-25, 2013
- 山田眞由美 健診センター健診運営部看護科：採血における看護師腰部負担の実態調査. 予防医学ジャーナル 471 : 47-51, 2013
- 亀井真由美 健診センター健診運営部健康相談室：特定保健指導の有用性. 予防医学ジャーナル 471 : 99-103, 2013

#### ②学会報告等

- 山浦泰子 健診センター医局：無症状の大動脈弁逆流とメタボリックシンドローム，第24回日本心エコー学会学術集会，東京，2013. 4. 25-27
- 田中一朗 健診センター医局：当施設における細胞診精度向上の試み，第54回日本臨床細胞学会総会（春季大会），東京，2013. 5. 31-6. 2
- 田中一朗 健診センター医局：当施設における液状細胞診システム細胞診精度向上の試み，兵庫県産科婦人科学会総会，兵庫，2013. 6
- 東塚伸一 事務局：採血事故処理の事例報告 テーマディスカッション「健診の採血事故対応について」，平成25年度第2回予防医学事業全国運営会議，福井，2013. 10. 17
- 島屋真希 健診センター医局：一健診機関における職域大腸がん検診の実態調査ー市町村実施のがん検診との比較ー，第72回日本公衆衛生学会総会，三重，2013. 10. 23-25
- 上田いずみ 健診センター健診運営部健康相談室：保健指導業務評価チェックシートの活用による指導技術の向上と特定保健指導，第48回予防医学技術研究会議，愛媛，2014. 2. 27-28
- 金本栄美 健診センター健診運営部臨床検査科：学校心臓検診における心音図の現状，第48回予防医学技術研究会議，愛媛，2014. 2. 27-28
- 平田奈穂美 健診センター健診運営部健康相談室：体重変化と検査データ、生活習慣の関連についてー脂質変化の検討をとおしてー，第48回予防医学技術研究会議，愛媛，2014. 2. 27-28

#### (2) 健診・検査で得られたデータの活用

##### ①事業年報の配付

年度単位の健診・検査データの活用を推進するため、平成24年度事業年報の編集において、集計・統計やその表示について大幅に修正をおこない調査研究に引用しやすいよう修正を加えた。また健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

現在、平成25年度事業年報の編集中であるがさらに充実を図っていく。

## ②健診・検査データ等の活用

### ○統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

- ・行動変容を目指した特定保健指導－性格タイプテスト取り入れた試み－
- ・健診データを活用した健康づくり－地域の人々健康管理、生活機能の維持・向上に向けて－

### ○統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や健診で用いられる様々な検査の意義等の情報等を講演会や学会等での発表や広報誌に掲載する等、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

- ・シンポジウム『女性のがん検診』－検査内容と結果の見方－を開催し、「マンモグラフィ検査」「乳腺超音波検査」「子宮頸部細胞診」についてそれらの検査の方法や意義等、実際に担当する技術者からわかりやすく解説をするなど、子宮頸がん検診及び乳がん検診受診の動機付けとなる情報を発信した。
- ・シンポジウム『健診結果の読み方・生かし方』を開催し、「検査値の正しい読み方、考え方」「健診結果の上手な生かし方」「健診結果を踏まえた食生活の改善方法」をテーマにそれぞれの専門技術者が解説し、様々な質疑を含め、健康診断の重要性を発信した。

## 4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

### (1) 健康づくり事業

健康学習として、疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座を開催した。「土曜健康科学セミナー」では健康診断の受診の意義や疾病予防に関する知識や情報を、また、「健康づくりセミナー」では食育や女性のがん検診啓発に関するテーマを取り上げ、講演会だけでなくシンポジウム等受講者参加型セミナーも開催し、受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

教室事業は、開催の時間帯や曜日、回数等に変化をもたせ、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるように工夫した。特定の疾病の予防を目指した「骨粗しょう症予防運動教室」「尿もれ予防体操教室」「膝痛なくなれ運動教室」をトータルコースとして引き続き実施した他、「セルフリンパマッサージ」や「自力整体」など、自分で体のメンテナンスを行う教室を実施した。

生活習慣病の予防と改善について料理と講話で学ぶ教室「いきいき食生活」等、ライフキッチンコースとして月例で開催した。

トレーニングジムの運営では、県民・市民の健康づくりのサポートを第一に、健康運動指導士や健康運

動実践指導者等を配置し、高齢者や障害者等に対しては初回説明会で個別指導を行う等、より安全で高度な指導を実施した。また、スタジオレッスンでは、高齢者や障害者に利用しやすいプログラムを準備し、利用者の好評を得た。

## (2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案すると共に、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりイベントの企画・実践を行った。

今年度は、女性を対象とした健康教育の依頼が多くあり、女性のライフステージに合わせた食生活・運動についてのセミナーは好評を得た。さらに、健康ライフプラザのライフキッチン・研修室等を活用した実習に重点を置いた企画も行った。また、事業所等からは、「メンタルヘルス」についての講演依頼も多く、保健師を中心に講師を派遣した。

## 《建物・設備機器等の更新・整備》

### (1) 新館建設

御影健診センター（1号館）の老朽化が顕著である中、受診者サービスの向上及び健診事業の効率的な運営を図るために、平成24年8月から神戸市灘区岩屋北町で建設工事を進めてきた新館（地上5階・地下1階、延べ床面積：7,254㎡）が、平成25年11月29日に竣工し、平成26年1月18日に落成した。

### (2) 御影健診センター（1号館）改修工事

2・3号館の借地期限（平成26年12月末）が迫る中、現3号館機能（検査部門）の移転先及び一部健診の実施会場として整備するために、平成26年1月に御影健診センター（1号館）の改修工事に着手した。工事完了は平成26年6月末を予定している。

### (3) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| ①デジタル胸部X線撮影装置      | ⑨健診基幹システムサーバー |
| ②上部消化管汎用ビデオスコープ    | ⑩磁気共鳴診断（MR）装置 |
| ③日本語ページプリンター       |               |
| ④デジタル超音波画像診断装置     |               |
| ⑤心電計               |               |
| ⑥眼底カメラ             |               |
| ⑦施設健診予約業務用ソフトウェア開発 |               |
| ⑧採血管準備システム         |               |

## 事業報告附属明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	件数
疾病予防のための健康診断 及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	54,042人
		がん検診（施設実施分含む）	113,701人
		結核検診	53,131人
		エイズ検診	2,448人
	学校保健	一般健診	76,929人
		腎臓・糖尿病検診	244,358人
		寄生虫検査	133,037人
		心臓検診	77,310人
		脊柱検診	31,633人
		結核検診	54,063人
	産業保健	一般健診	138,262人
		特殊検診	17,118人
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	21,786人
		労災二次健診	85人
	総合健診	総合健診	7,488人
	保健指導	特定保健指導等	367人
	細胞診	子宮がん細胞診	49,635件
		喀痰細胞診	8,814件
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	100,965件
	作業環境測定	作業環境測定	1,118件
食品検査等	食品検査	9,787件	
水質検査	水質検査	3,530件	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	4,682件	
健康支援のための健康増進 事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	10,817人
		運動施設の個人利用	108,784人
	健康づくり支援事業	講師派遣等	97回
		健康づくりの場の提供	272件

